

# 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 藤松 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。  
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。  
運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 本市における調査内容

#### (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

### 3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

#### 質問紙調査の結果分析

「運動やスポーツは大切なものですか。」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は高かった。しかし、「学校の体育の授業以外で、運動やスポーツを合計で1日およそどのくらいの時間していますか。」の質問に対して、平均運動時間は全国の傾向より少ないということが分かった。オリ・パラ推進事業でのコロンビア選手団との交流やバラスポーツ体験など、運動やスポーツに前向きに取り組もうと思う児童の心情を育てる成果が出ている一方、コロナ禍の影響で、外遊びや運動の機会が減少していることが影響しているものと考えられる。学校としても、児童が運動を行う機会を意図的に増やしていく必要があると考える。

### 4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

「北九州市体力向上プログラム 体育『好きっちゃん』プログラム」を活用した体育科の授業づくりを体育科主任を中心に推進していく。45分の学習時間の中に適切な運動時間を確保した上で、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行うようにしていく。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

コロナ対策に留意しながら、例年行っていたランランタイムや新しい取組を行う必要があると考える。また、児童が休み時間などの遊びの中で、思わずたくさん運動したくなるような場づくりや教師の働きかけも継続していく。